

ギャップイヤー： イギリスからのレッスン

九州大学
教育国際化推進室
廣瀬 武志

はじめに . . .

なぜギャップイヤーか？

秋入学への移行



国際標準の学事暦と整合的に



学生・教職員の国際流動性が高まる

る

国際的競争力の強化？

グローバル人材育成への寄与？

大学の国際化の促進？

留学生受入れの拡大？

価値の多様化？

が、秋入学に移行すれば・・・

入学前／卒業後に半年ほどの
「ギャップ」ができる。

イギリスでは40年以上の歴史を持つ
ギャップイヤー。

日本も . . .

秋入学の是非について
イギリスの経験から学ぶことが
多いのでは？

イギリスからのレッスンを学ぶにあたり

まず日本との制度的・文化的ちがい
について知ることが大切。

制度的コンテクストのちがい 1

	イングランド	日本
義務教育	11年	9年
出願方法	UCASを通して 志望校すべてに	大学ごとに
進学率	47% (2009) *17-30歳の年齢層のみ	56.9% (2010)
学事暦	原則、秋入学	原則、春入学
修業年限	通常、3年	通常、4年
卒業率	平均85% (2009) 最高98%, 最低63%	平均84.6% (2009) 最高99%, 最低46.6%
新卒の採用方法	企業によって異なる	新卒春季一括採用

(参考) イングランドの教育制度

修業 区分	キース テージ	年齢	備考	
就学前 教育	Early Years Foundation Stage	0-5	義務ではないが、3～4歳児のほぼ100%が就学前教育を受ける。	
初等 教育	1	5-7	Primary School (Infant School)	地域によっては、5-8歳はFirst School、 9歳からはMiddle Schoolにおいて初 等教育を受ける。中等教育は13-4歳か らスタートするが、学校は Middle Schoolのまま。
	2	8-11	Primary School (Junior School)	
中等 教育	3	11-14	Comprehensive School	
	4	14-16	ステージ4は、GCSE(中等教育終了一般資格)の取得とともに修了。GCSE の結果によって次の進路が決まる。①Sixth formに進んで、GCE-A levelな いしは Vocational A-levels の準備をするか、② College of Further Education(Vocational/ technical colleges)に進学して職業訓練を受けるか、 ③働くか、が主な選択肢。	
	(5)	16-18	上記①を選んだ場合： School Sixth Form(中等学校に付設されている場合)またはSixth Form College(独立している場合)に進学し、大学入学資格であるGCE A/AS Level, Vocational A level等の取得をもって修了。	
高等 教育		18 歳 以上	大学, 高等教育カレッジ(Tertiary College), 継続教育カレッジ(College of Further Education)	

出典: Susan Wallace ed. (2008) *A Dictionary of Education*. (Oxford: OUP)

UCAS 'Apply'

UCAS

Contact us | [Help](#) | Print page

2012

Choices

<Log out

Welcome

Personal details

Additional information

Choices

Education

Employment

Statement

Reference

Pay/Send

View all details

Help

Options/Opsiynau

Welcome > Choice summary > Choice details

To avoid losing information please click 'save' before leaving the page.

To search for courses, check entry requirements and view Entry Profiles, please use [Course Search \(opens in a new window\)](#).

Compulsory fields are marked with an asterisk (*).

Institution code*

see list

?

Course code*

see list

?

Campus code*

see list

?

Start date*

see list

?

Further details

?

Live at home while studying?*

☐ Yes ☐ No

?

Point of entry

?

save

cancel

Key

☒ Completed

☐ In progress

☐ Not started

☐ Help

UCAS

Contact us | [Help](#) | Print page

2012

Reference

<Log out

Welcome

Personal details

Choices

Education

Employment

Statement

Reference

Pay/Send

View all details

Help

Options/Opsiynau

Welcome > Reference

Our [guide to obtaining a reference \(opens in a new window\)](#) will help you complete this section. Click on and print the [advice and guidance for referees for independent applicants](#), which you can give to your referee.

Compulsory fields are marked with an asterisk (*). Before leaving this page, click 'save' to avoid losing any of your information.

Referee details [Clear referee details](#)

If you are certain that no reference is needed on your application please read the following declaration and tick the checkbox:

I confirm that I have contacted every one of my choices to discuss the situation and that each of them has stated that I do not need to include a reference in my UCAS application ☐

Full title and name of referee*

?

Post/occupation/relationship*

?

Organisation name*

?

Address*

?

Telephone number*

?

Key

☒ Completed

☐ In progress

☐ Not started

☐ Help

制度的コンテクストのちがい 2

	イングランド	日本 もし秋入学が採用されたとして
呼称	ギャップイヤー	ギャップターム（造語）
中等教育は・・・	6月に終了	3月に終了
高等教育は・・・	原則、秋入学（9/10月）	原則、春入学（4月）
入学前 ギャップ期間	15～16か月	5～6か月
任意か／強制か	任意 ＊出願時に「入学延期(deferred entry)」を選択	強制（必然的に発生） ＊高校の学事暦がそのままとして・・・

文化的コンテクストのちがい 1

あくまで私の個人的な印象
にすぎませんが・・・

文化的コンテクストのちがい 2

◎大学の役割・機能に対する認識

- 日本→ 大学の教育機能の弱さ、期待の低さ
- 英国→ 卒業証書自体が質保証

(注意) あくまで私の個人的な見解にすぎません！

文化的コンテクストのちがい 3

- ◎ 「所属」に関する意識
 - 「無所属」期間が出るのを嫌う
- ◎ 「就職」に関する意識
 - 原則、同期生は一斉に卒業／就職
 - 新卒と既卒は別ルール
- ◎ 「外国」、「外国語」へのハードル

(注意) あくまで私の個人的な見解にすぎません！

これらのちがいをふまえたところで、

イギリスの事例が日本に教えて
くれるのは？

ギャップイヤーの過ごし方のモデル 1

- ◎ 勤労（フルタイム／パートタイム）
- ◎ インターンシップ（国内外）
- ◎ ワーキングホリデー
- ◎ ボランティア（国内外）
- ◎ 留学
- ◎ 旅行（国内外）
- ◎ 上記の組み合わせ

ギャップイヤーの過ごし方のモデル 2

◎ 効果的なプログラムの作り方

- 内容
- 期間
- ロケーション
- 費用
- 広報

ギャップイヤーの過ごし方のモデル 3

- ◎ 政府の関与のあり方
 - 質保証のあり方
 - 協会の設立
 - ギャップイヤー・プログラムの「認証評価」
 - 政府によるボランティアプログラム
 - Young Volunteer Challenge

ギャップイヤー体験がもたらすもの 1

- ◎ 高い問題解決能力
- ◎ 高いコミュニケーション能力
- ◎ 高い時間管理能力
- ◎ 鋭い自己分析力
- ◎ 修学力の向上
- ◎ 精神的なタフさ、成熟度
- ◎ 強い自立心
- ◎ 高い柔軟性／適応力
- ◎ 強い責任感



雇用適性／就業力
(Employability)が
あがる

ギャップイヤー体験がもたらすもの 2

その他、

- ◎ 勉強への関心やモチベーションの刷新
- ◎ 中退率の低下
- ◎ 大学で学ぶ目的の明確化

また、ギャップイヤー利用者は、非利用者に比べ、
より高い成績を修める傾向があるとの報告の一方
で・・・

理数系科目における学力が低下する
との報告がある。



(特に理系の学生が)
学力を落とさないための配慮が必要

格差の拡大？

◎ 富裕層の子女の参加率が高い

- 人口比率に比べ、低所得者層に属する若者（特に男子）の参加率が低い。
- エスニックマイノリティの参加率が低い。
- ただ、その理由は参加コストだけではない。
 - 富裕層の文化？
 - 正確なアドバイスおよび知識の欠如 等々

◎ GYプログラム参加費用の高騰

- ギャップイヤー体験のランクづけ

逆にこれらの制度・文化のちがいをふまえると、

日本にとって
必ずしも参考にならない
こともあるのでは？

ギャップイヤー期間における大学の責任

◎ 任意 v. 強制

- 入学予定者の身分
- どこまで入学予定者の自由に任せるのか？
- GY期間中のアクティビティの単位化
- 指導・評価方法の確立
- 入学後のカリキュラムとの接続・整合性

就職／採用のあり方

- ◎ 企業の雇用慣行
- ◎ 就職に関する意識

秋入学／グローバル人材育成について・・・

これまでみてきたことから
どのような検討課題
が考えられるか？

おおげさにいえば、日本の大学教育のあり方そのものに関する検討が必要では？

便宜的にカテゴライズしてみると・・・

学事暦

タイプ	年間 ターム数	各ターム期間
セメスター制	2	①春学期（1～4月または1～5月）＋②秋学期（9～12月）＋ サマーターム（6～8月）
トライメスター制	3	便宜上、タームが3つに分かれているという意味では英国はトライメスター制といえるかも。
クォーター制	4	①9～12月、②1～3月、③4～6月、④7～8月 学生個人の判断で7～8月の学期（あるいは他学期）を長期休暇にあててよい。

授業時間の確保 → セメスター制への移行？

セメスター制を採用したとすると・・・

- ◎ 大学入試実施スケジュール
- ◎ 段階的導入 v. 全面移行
- ◎ 秋入学のみ v. 春・秋入学の並存
- ◎ 春入学のまま導入期教育？
- ◎ 秋入学だとして・・・
 - 9月スタートか？10月か？
 - 遺失収入
 - 休学期間の長さ／時期

修業年限

- ◎ 4年のままでいいのか？
- ◎ 3年半？ 4年半？
 - 「学校教育法」の改正が必要？（第87条）
 - 早期卒業制度（学校教育法第89条）
 - 長期履修制度（学校教育法第89条）

Excursus:

秋入学への移行で留学生は増えるか？

- ◎ 長期と短期を分けて考えるべき。
 - 学位取得を目的とする留学 → 大幅な拡大の可能性は低い？
 - 定員に関する考え方
 - 国際コースの増加
 - 入試プロセスの簡略化等の制度改革
 - 学位取得を目的としない留学 → 学事暦の変更、英語による授業の拡充等があれば・・・
 - 日本型サマータム／サマースクール

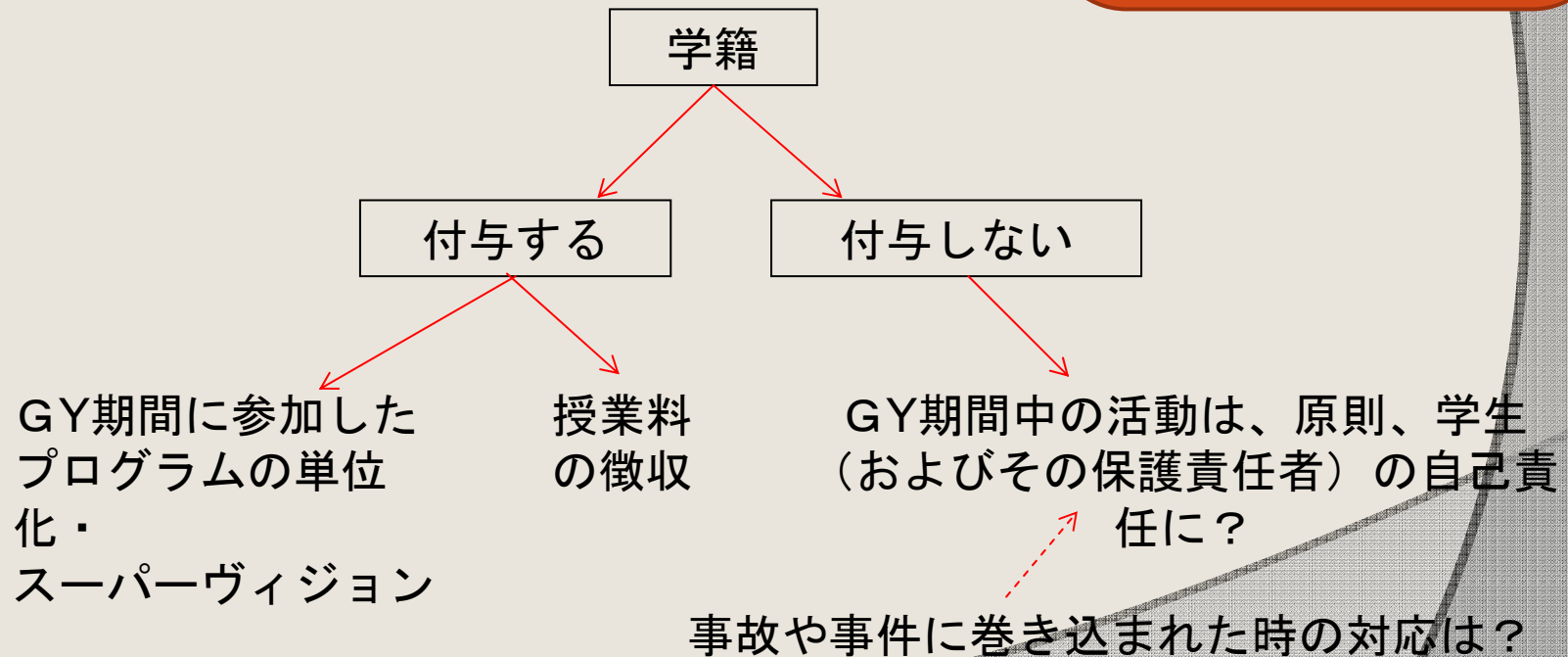
日本型ギャップイヤーのかたち

- (1) 大学の関与
- (2) 政府の関与
- (3) 産学官民の連携のあり方
- (4) プログラム内容
- (5) 経済的支援のあり方

大学の関与のあり方

- ◎ どこまでが大学の責任か？
- ◎ 入学予定者の身分

日本の社会通念が劇的に変わらない限り、学生の所属先および管理責任が問題に。大学は積極的に関与せざるを得ないのでは？



英国式の「入学延期制度」も検討に値するのでは？

大学がGY期間中の教育責任を引き受ける として、どのようなプログラムが適切か？

- ◎ グローバル人材育成への貢献
- ◎ 個々の大学の育成人材像（ディプロマポリシー）
- ◎ 入学後のカリキュラムとの接続・整合性（カリキュラムポリシー）
- ◎ 適切な指導・評価方法は？
- ◎ 質保証→政府がどこまで関与するか？
- ◎ Opt outする可能性を含め、多様な選択肢を！

GY期間中プログラムづくりは、単独では難しい。産学官民での連携が不可欠。

- ◎ 国内外インターン受け入れ先の開拓、フォローアップ
- ◎ 地方出身学生への配慮
 - 遠隔教育、宿泊施設の整備
- ◎ 経済的支援
 - 給付 v. 貸与 v. 折衷型
 - 政府や産業界がどこまで関与するか。
- ◎ 危機管理スキーム

経済的支援のあり方

- ◎ 事実上の就業年限の延長
 - 実質的な家計負担増
 - 格差拡大の可能性
 - バイトに明け暮れてはいけなののか？
- ◎ 戦略的な支援のあり方
 - 給付→優秀だが経済的に余裕のない学生？
 - 貸与→やる気のある学生？

雇用慣行の見直し

◎ 新卒春季一括採用制度

- 一括採用の是非
- 通年採用／入社の可能性
- 卒後数年間の新卒扱い
- 中小企業の採用コスト

◎ 企業の採用活動

- 卒業後に始められないのか？短くできないのか？

◎ 公的資格試験受験資格、試験実施時期等の見直し

- 実施回数を増やす？

卒業後ギャップイヤー

- ◎ 6月に卒業するとして、内定者の入社（春／秋）までの身分は？
- ◎ 入社前教育？
- ◎ 入社延期制度？

大学の教育機能

- ◎ 日本の学部教育はいまのままでいいのか？
 - ギャップイヤーの効果は証明済み。だが、大学教育の代替品ではない。
 - あくまでも核とすべきは大学での授業。
 - 大学の授業を通して、コミュニケーション能力、時間管理能力、精神的なタフさ等を身につけられないのか？大学教育ってなに？

喫緊の課題としてのグローバル人材育成と 日本社会の意識改革

◎ 不安や不確実性に対する耐性／許容度の低さ

- 不確実な要素を減らして、早く安心することに労力をそそぐ？
- 時間をかけて議論を尽し、例え不透明な部分が多くても、ベストな制度を作ろうとする意欲が低いのでは？

◎ リーダーシップをとる意欲、意志、そして能力の欠如

おわりに . . .

ありがとうございました。

廣瀬武志

hirose@isc.kyushu-u.ac.jp